

令和4年度松浦市まち・ひと・しごと創生協議会 議事録（概要版）

日 時：令和4年8月25日（木） 15時00分～17時00分

場 所：すこやか青プラザ 3階 健診室1・2・3

（開会）

【次第1 総合戦略に基づく施策の評価・検証について】

基本目標1「しごとの創生」について

（A 委 員）数値目標があったが、令和6年にこの数値になるという目標だったのか。

（事 務 局）数値目標については、6年度までの5カ年目標を達成するものと、1年ごとに目標を達成するものと混在している。

（A 委 員）この目標がいつ立てられたか。もう1つ、コロナの影響があったと思うが、そういったところを加味された目標だったのか。

（事 務 局）第2期総合戦略は、令和2年3月に策定している。新型コロナウイルスの感染を加味しない目標設定となっている。

（A 委 員）私どもも企業説明会へ参加している。企業説明会へは、働きたいと思われている方が来られていると理解しているが、企業数に比べて参加される方が減ってきている。ここに教育（関係）の方がいらっしゃるが、（生徒・学生が）企業に求めるものはどういうものか。

（議 長）どうでしょうか、よろしいでしょうか、ご回答いただければ。

（B 委 員）全ての状況を知っている訳ではないが、学生たちを見ていると、基本的には就職サイトで情報を得て、該当する企業があれば、そこにエントリーしている。それ以降のことは、就職課とかじゃないと私はちょっと存じ上げない。

（C 委 員）昨年は、66人と少ない。これまで高校生が入っていたのかわからないが、昨年の卒業生の数も少なかった。例年、およそ進学が7割、就職が3割となっている。今年度は、9月から就職試験が始まる。就職希望者で行きたい企業の意味を示している生徒が30名いる。30名のうち、市内の企業に11名。県

内の企業が 9 名。その他が 2 名。県内就職希望者は、30 名のうち 22 名が希望をしており、県内就職率が 6 割を超えてきた。毎年そういう傾向。松浦市内での希望者も多いと思っている。

ただ、進学が 7 割いるので、この生徒たちが、例えば、県立大とか国際大とかこの辺だと通えるが、それ以外だと大体、市外に出てしまう。こういった生徒たちが、将来的に例えば大学に行ったり、その学校に行ったりした後に、やっぱり地元に戻ってくる。ここをやっぱり手入れしていかないといけないだろうと思っている。

これは大学に行った後も地元に戻ってくるようなことを、各学校かなり意識をして進めている。やはり、進学する子たちにも、松浦の企業のことを知ってもらわないといけない。

今年度、本校が地域科学科になって、文科省の新しい研究指定を受けている。3 月まで御厨中学校の校長をされていた大内先生が、魅力化のコーディネーターに入られている。そういった松浦の企業との連携に力を入れようと動いている。

これについては、研究指定の中でコンソーシアムを組んでおり、市内の企業様からのご意見をいただいている。まつナビをやっているが、企業との連携を今後どんどん進めていきたい。大学や県外に出ても、また、戻って来られるような、意識付をしていきたい。

(B 委員) 本学の県内就職率の KPI が設けられていて 44 パーセントを目標としている。実績が大体 3 割程度。1 番県内に残っているのは、県内の出身の女性。そこは 6 割ぐらい残っている。ただ、**県内出身の男性**については、**女性よりも県外に**就職している状況にある。

(議長) はい、ありがとうございます。市としても、子供たちに早いうちから、地元の企業を知っていただく取り組みを進めているところ。

令和 3 年度の実績 66 人。対象者がどうかとか分からない部分もある。

令和 3 年度は 1 番コロナの影響もあり、人を集めるのが難しかった部分もあると思うが、担当課の方でそのあたりが何かわかるか。

(執 行 部) 令和 3 年度の合同企業説明会参加者数 66 名だが、このうち、20 名が一般の求職者の方。それ以外の 46 名が高校生の参加者になっている。高校生については、松浦高校と鹿町工業高校、北松農業高校。

(議 長) 「しごとの創生」の部分で、農林水産分野もあるが、D 委員、何かご意見ございませんか。

(D 委 員) これまで役員面接をかなりしてきた。県立大か(長崎)国際大の面接が多いが、歩留まりが悪い。事業体として魅力がないのかなと思う。先ほどお話があったように 女性の方がやっぱり多い。私共が悪いとは分かるが。9 月になれば高校生の面接が入っている。とにかく職員不足。この農協でも、やっぱり職員が少ないと足りないというような状況。 どうにかしていかなければと思っている。

(議 長) ありがとうございます。

(E 委 員) 今の人材不足ということで、園関係だが、15 年前は、毎年 4、3 人、たくさんの方が来ていただいて、にぎやかな 実習とか、明るい前が見えていたが、保育士を 1 人探すのでも、今はどこのハローワークに出しても全く見つからない。

生徒も確かに減っている。人口減少が影響していることもある。その少ない中で、雇用面で、福岡の方がいいとか。ほんとに(市外へ)出ていかれる。地元に戻ってきてくれるのが前は当たり前みたいな感じだったが、実習に来られてもなかなか難しい現状で、1 人の保育士を 2 年間探しているが、見つからない。派遣会社から F A X がしょっちゅう来ているが、すごいお金を払わないといけない。大変な状況でも採用ということになるので、園としては厳しい。人口減少からずっと就職、そしてやっぱり条件の少しでもいいところに行かれて。新人さんが入るのが 13 保育園あるが、その中で 1 か所あれば、本当に良いほう。厳しい状態。

どこの企業も、どこの事業も、多分こういう状態がどんどん続くのかなと思う。人材がいけないこと。それから 人がいないと活性化しないということもある。

大村の方が、保育士の補助金を出されていた。難しいと思うが今後検討していただいて、保育園に限らず、いろんな就職先のところに就職をされたら助成金を出すなど。今後、他の市がされていることなどを見ていただいて、その中で、松浦でできることをしていただくと、人がもう少し就職とかには繋がっているんじゃないかなと思う。

(議長) ありがとうございます。

この目標を達成するための具体的な事業や、今のようなご意見を取り入れながらやっていければと。人口減少が大きな課題で、そのためのこの計画でもある。社会減で、転出が松浦市で多く、そのことによって、働き手もいなくなっている。繋ぎ止めるためにどうやるか、様々な評価指標を掲げている。地道にその実現に向けて、目標値を達成していかなければいけない。人口減少の進み方が非常に激しいというところがあり大変なこと。

(B 委員) 1つお願いがあります。資料 1 の 1 ページに数値目標があるが、ながさき西海農協、松浦市保育会は、おそらくサービス業。お 2 方ともサービス業の立場でお話をされているが、製造業しか K P I に入っていない。おそらく、どこの自治体でも 3 次産業が 1 番シェアを占めていると思う。1、2、3 次産業を想定して、「しごとの創生」の K P I を定めていく必要があると、個人的に思った。おそらく次期の総合戦略になってくると思うが、その際に K P I の修正をしていただければと思う。

(議長) 今の意見に対して、担当課としてはどうですか。

(事務局) 毎年の統計で市内従業員数が見られるのが工業統計ということがあったため、使わせていただいている数字だと思う。B 委員の方からご意見がありましたので、来年度以降そういうことを踏まえて再検討させていただきたい。

(B 委員) 経済センサスも実施されている。農業については、各市町村別に林業、水産業の新規雇用とか新規就農も含めて数値が取られていると思う。そういったものを総合的に勘案していただきたい。

(議長) いまのところは、事務局の方で、よく検討していただきたい。

基本目標 2「ひとの創生」について

(D 委員) 新規就農者については、私ども農協としても、「トレーニングファーム」という、県の補助があり、それぞれの農家のところに研修に行って、福島で牛のほうで講座を受けている。また、10月から新しくトレーニングファームを行うので、できればそういったところを進めていただいて、新規に就農していただきたい。今は、肥料等の価格が高騰しており、農家の組合員数がかなり減ってきた。できれば、新規就農を育てるといった意味で、松浦市の人口も増やしていける。

えっと、都市計画の方いらっしゃいますか。

空き屋バンク、ここに空き家ということがあるが、これはどのような進み具合になっているか。

(議長) 新規就業者のところで、令和3年度は0（ゼロ）っていうことだが、現状をお話しいただきたい。執行部の方から、農林課、方向性、今どういう状況なのか。

(執行部) 4年度は、福島の方で高校を卒業された方が、トレーニングファームに参加されており、新規就農されている。先日、新規就農の相談会を開催し、来られた方が3件あり、その中からまた、支援をしていくという形になっている。

(議長) ぜひ実績として、出るように頑張ってください。

次に、もう1点ありました空き家バンクについてよろしいですか。

(執行部) 空き家バンクにつきましては、平成の29年度から運用している。これまでに43の登録物件があり、そのうち33件が賃貸や売買により活用されている。賃貸と売買、市内と市外者の利用者の内訳だが、10件が市外の方で、市内の方が19件、区別が付けられない方が4件ということで、33件の利用がされている。

こちらの空き家バンクについては、登録物件についてのリフォームとか荷物の片付けに対する、そういった活用に必要な費用について、2分の1の補助金を出している。最大上限額が50万円となっている。

去年は補助金の活用が8件あり、3112万5000円を交付している。

(D 委員) 私が上志佐なので、以前、そういったことで協力をした。先ほどからも話があったように、交流人口も、もちろん必要なことだが、できれば定住してもらうように空き家バンクをうまく利用して、例えば、Iターン、Uターンでもいいので、新規就農をしてもらいながら、空き屋バンクのところに住んでいただければなということで、都市計画の方をお願いしたところ。

(議長) ありがとうございます。その他委員の方からございませんでしょうか。

(F 委員) 私も高校卒業して、3年福岡の専門学校に通って、松浦の方に帰ってきて、20年市内の方で勤務して、結婚して、子供たちの3人育てている。子育てしやすいまちとして、アピールしていかないといけないのかなと思っている。また、福祉医療とか、高校生までとか、ワクチン接種とか、様々な助成の方があって、親として本当に助かっている。多分、この前の市議会の方でも出ていたと思うが、以前、行われていた給食の助成とか、子育て世代としては、結構助かるところがあったが、再開はもうないってことでよろしいか。私の会社の方でも、松浦市が子育てしやすいってということで、佐世保から帰ってきた方とかもいらっしゃいます。そういうのが情報で入っていたので、そういうのがまたできたら、そういう子育てしやすいっていうのも、アピールをどんどんできれば、ちょっと人も増えていかないのかなっていうのが1つ思った。

(議長) 子育て支援というのは、どこまでやれるのか、財政的な相談の部分もある。給食費の補助というのは、やっぱり結構お金がかかるわけだが、第2子以降とかっていうことになる、全然恩恵も受けない方もいらっしゃるということで、私がきているところで、やっぱりアンケートを取ると、優先順位として、こういうことをやってほしいっていう中からは、ちょっと下だったっていうようなことがあって、給食費の無償の部分の財源を使って、その他の子育て施策に当てようというのが、松浦市がやってきたやり方ということであって、ニーズとそういうのを合わせながら、財源と両にらみでやっていくってということで、今のところ、給食費の部分を復活させさせるというようなことは持っていない。ただ、いろいろな子育て施策というのは、検討してということ。

(E 委 員) 子育てしやすいというか、保育の関係が 10 年ぐらい前から、元々安くされていた。保育所の入所で、2 子目以降は無料で他所から来られた方がびっくりされる。3、4、5 歳は、保育園保育料の無償で、0 歳、1 歳、2 歳さんだけが保育料が発生している。3、4、5 の副食費に関しても松浦市はがんばっていただいている。副食費の月 4,500 円も市が補助している。給食費っていうのも、食事代のほうも市の補助があるので、保育園に来られた方で、0 (ゼロ) 歳から学校に行くまでのお子さんの保育料の負担というのがものすごく軽減されている。

隣の伊万里の方が入園されても、保育料は全然違って向こうは高い。だから、松浦市はいいですね。っていうのはすごく聞く。市の子育て・こども課の方が、全力で子育て応援のサポートで、こういう事業をいっぱいいただいているので、小さいうちは松浦市で育てたい。これはものすごく大きいことだと思うので、ありがたく思っている。

婚姻とか、不妊とか、細かいところにいろいろと事業をされて配慮されている。女性の方、結婚された方、子育てされる方に優しい市ではないかと思っている。

ただ、困っているのが、ニーズはすごくあるが、保育士が今足らないので、たくさん受け入れられない状況である。将来的に、ニーズと人を集めるところがうまくいくと、もっとよりよく対応してあげるのではないかなと思う。

(議 長) ありがとうございます。

(G 委 員) 新規就農者が 0 (ゼロ) となっているが、家を継いだとか、そういうのはどうなっているか。

(議 長) 農林課お願いします。

(執 行 部) 新規就農者というのは、親元就農とカウントを別にしている。親元就農の方はいら。独立系が令和 3 年度は 0 (ゼロ) だったということ。

(G 委 員) ありがとうございます。テレビで、1 億円農家というのが出ていた。エノキを作っているところ。作り方を工夫して、生産を拡大して、年収 1 億円を超えて。芋を植えて、それを冷凍させて、ペースト状にして出して、1 億円を超えて

いる。やり方によって収入が増やせる。そうすれば、農家をする人たち、新しく農業をやっていこうというような人たちが出てくるかと。

松浦の地形を見ても、農業をするような地形とか、段々畑とか、そういうようなところが多く、農業に対しては、かなり厳しい部分があるかなと思う。

そういったところを整備して、少しでも就労できるような場所を作る、そういうのを支援していく。そうすると、やっぱり人も残っていく。そういうのが1つ考えられる。子供が少ないので、その子供たちがやっぱり残らないと。

ここの最初に入っているのがテーマになっていると思うが、人をいかに残すか。そして、また、外から人をどれだけ受け入れられるかというについて考えていくとすれば、そういう条件的なことを考えていく必要がある。そういうことをやられているとは思いますが、それを皆に広げていくとか、知らせていくような、そういうアピールの仕方を工夫してやるといいんじゃないかというようなことを考えた。

(議長) 農家の所得向上、漁家の旅所得向上。行政としてもこれまでもやってきているところだが、まだまだ、そういう部分で周知したり、徹底していけば、というご意見でした。今後も、そういうところも参考にしていきたい。

基本目標3「まちの創生」について

(H 委員) 対話によるまちづくりの推進というのは、友田市長の肝煎りで進めようと思われていると思う。ここ2か年0（ゼロ）ということだが、コロナの影響もあると思うが、どうして組織ができないのか。ほかの自主防災組織などは増えているのに、なぜ、地域の運営組織が立ち上がらないのか。その理由はどのように考えているか。

(事務局) ご質問ありがとうございます。この「まちの創生」の対話によるまちづくりの推進の目標の地域運営組織ですが、ご指摘のとおり、まだ、組織ができていない段階だが、実情を話すと、行政と地域が協働して、その地域それぞれにある課題を解決していくという組織づくりを、今、目指しているところだが、現在、動きとしては、調川地域をモデル地域と設定をして、現時点ではそのコア

メンバーによる準備会が設立されている。今のところ、今年度中に設立まで行けないか、メンバーの方といろいろお話をしている。今後も、市が伴走して、計画づくりであったり、組織づくりであったり、何とか、今年度中に形にできないか考えているところ。

(H 委員) そのモデル地区として、調川地区と進められているのは分かるが、ほかの地区でなぜ広がらないかというその根本的な理由を。

(事務局) なぜ広がらないかというその根本的な理由ですが、例えば、佐世保市とか平戸市とか、もうすでに先行している地域がある。すでに平戸市は全地区に設立が完了したと聞いている。松浦市の場合、取り組み自体が少し遅かったということも、平戸市と比べてある。やっと、モデル地域の選定と準備会の設立まで至った。同時進行で他の地域も一緒に進めるには、マンパワーも必要で出来ないところがあったが、今年度中に形にして、モデルを他の地域で波及させていきたいと考えている。

(議長) なかなか、その立ち上がらない理由っていうのが、はっきりはでないかなと思う。小学校単位の町づくりということで、広い範囲になるので、今まで松浦市は各地区、「免」とっていうのがあるので、なかなかそこから広く行くのに、時間がかかるのかなという風には思っている。1つモデル地区が今年度できたら、こうやったらできるよっていうことで、他のところにも示していけるそうならば、少し加速できるのかなと思っている。

(議長) ほかに何かございますでしょうか。

【次第2 地方創生関係交付金活用事業について】

(C 委員) すいません、松浦高校からのお願いというか、個人的なお願いなのかもしれませんが。前任校、佐世保で教頭をしていたが、その時に「まつナビ」みたいな取り組みをやっていて、佐世保への移住をテーマにしていた。そのグループが、実は佐世保の移住のプロモーションで、東京に行ったときに、生徒も連れていってもらったが、これ非常に勉強になった。そのグループは、いろんなコンテストで発表して、全国大会へ出場したりとかしていて、これを見せて

いただくと、いろんな事業で、誘客の推進とか、宣伝に行っていると思うが、本校の「まつナビ」でも、こういう観光とかをテーマでやっている生徒がいるので、もしよければ、生徒も一緒に出て、そのPRの人役を買うとか、そういったことに参加させていただけると、先ほどの話ではないが、松浦のことを子供たちが知って、そういう取り組みで、喜びを感じて、自己肯定感を高めて、松浦にとって、自分はこう必要な人間だっていう風な思いを強めていくと、将来的に、また、こちらに戻ってくるとかっていう思いにも繋がるかな、という風に思う。その辺、いかがか。

(議長) 今のご意見ですけど、高校生などが、都市圏交流観光であったりとか、都市圏との交流とか、そういうところで興味があったりする。そういうのは非常に大事なこと。PR活動を担っていただいたり、また、そういうことをやっている子供たちが、また、松浦市のことを自分でも広げてくれていると思うし、地元に残ってくれるとか、そういうこともいろいろあると思う。今のご意見は、今後、事業で取り入れられるように、検討したい。担当課の方にはそういうふうに伝えたい。担当課を地域経済活性化課とか、政策がする部分とか、水産がPRしたりとか、いろいろ多岐にわたっているので、ちょっと答えが出なかったようだが、そういうことでしたい。

(C 委員) ありがとうございます。

(議長) はい、どうぞ。B 委員。

(B 委員) 資料2の作成についてお願いですが、これは決算値ですかね？この数字だけ見てもどう判断してよいのか、正直わからない。ですので、予算と決算の2つを載せていただけると、なぜ増えたのか、なぜ減ったのか、その要因について、考えることができると思う。次回からは、予算と決算を載せていただけると、少しは判断材料になると思う。よろしくお願いします。

(議長) わかりました。ただ、予算とこの決算額というところで、そんな大きな乖離はなくて、役所の予算の立て方としては、予算を組んで、ほぼそれと同じような使い方をやっている。金額的にはズレはでてこないと思う。

(事務局) ご意見いただいたような形で、次回以降検討させていただく。

(議 長) 増えるということは、ちょっとありませんけども。

(A 委 員) 形になるかもしれないが、この令和3年度で0人効果です。これは、先ほど最初の説明の県から降りてきたという風にお伺いしたが、そもそも県の段階で予算がついていなかったのか。それとも、松浦市がこの事業がなかなか乗らないからってということで、県のほうへ上程しなかったのか。

(事 務 局) 県から降りてくるっていうよりは、県の計画に沿った形で、市の事業を実施するっていう形になっている。予算の段階では、こちらの事業も実施する予定にしていたが、諸事情で実績が出なかったということ。

(A 委 員) ということは、県の方から降りてくる段階で、予算が付いてこなかったという感じでいいですか。あの項目はあるじゃないか。

(事 務 局) 事業の実施がなかったので、交付金自体も降りてこなかったということ。

(議 長) 県は県でその分予算を組んで、連携事業で、市が市の予算を組んで、県の予算は受け入れる。それで、総額の予算を市で組んでいる。でも、実績が出なかったなので、事業が実施できなかったっていう分である。計画上予算で、計画はあって、予算に組んで。何かで、実績ゼロとなっている。

(A 委 員) 実を言うと、「長崎の水産物を世界に広げるプロジェクト」というところで、養殖業者への支援で、赤潮対策に対する取り組み試験をやっている。つい、2、3日前に赤潮が発生している。養殖業者から市場のほうへ連絡が入ってきたりしている。だから、そうなると令和4年度、赤潮などは想定できない部分でしょうから、当然事業費として、県はいくらから予算を取っているのか。実際になんかあってからでは遅いとは思うが、あったことに対する予算の執行とか、そういった部分は、どの段階でこういう風に決められているのか。吉本先生がおっしゃった通り、その予算があって、結果、実行できなかったから事業費は0なんです。っていう説明だったらわかるが、元々の部分では0円としていけば、最初から予算ついていなかったとわかるはず。

(議 長) 事業というのは、予算に組まないとやる事業としては出さないの、これは予算を組んでいたということになる。

(執 行 部) 市としては予算を組んで構えていた。事業主体がいらっしゃるんですが、事業

主体が諸事情で実施しなかったということ。

(議長) 最初のB委員のご意見のように、予算を書いて、実績を書くと、今のようなそんな議論にもならなくて済む。これからはそのように。

【次第3 近隣自治体との人口比較について】

(E委員) 私は、松浦に産まれて、途中は長崎市に居ましたが、地元で頑張りたいということで過ごしている。保育園の方が、佐世保からせっかく来られたが、諸事情により転出されてまた戻られた。なんか残念だなんていうのがあって、その方といろいろお話をして松浦はどうでしたか。っていうことを聞いた。そしたら、その方からのご意見があるんですけど、せっかくこういう間に参加させていただいたので、いろんな課の方がいらっしゃるので、一緒になんか対策っていうか聞いていただだけでもいいので。

まず、1つ目が高齢化で、老人の方がすごく増えてきている。松浦市で、老人の方が楽しめる施設がない。前も言ったが、市民プールプールがなくなって、健康寿命で健康で、年を重ねて余生を過ごされるということと、病気して、病院で過ごされるっていう方、その差は大きいと思う。ぜひ松浦市の方が、健康寿命で長く楽しめる施設、例えば、市民プールを作っていただくとか。難しいと思うが、理想です。お願いしたいのは、市民プールがあったら家族で遊ぶ場ができて、市外に行かなくて市内で遊べる。日曜は、皆さん、佐世保、伊万里、県外とか。不老山は、前は使えてよかったが、それも今使えない状態なので遊ぶ場がないということで、日曜日どう過ごすか、コロナの状況でいろんなところに行くのも怖いけど、ないから、子供のためにもってということで、無理して出ています。とか言われています。ぜひ、お年寄りの方が楽しめる施設を作っていただきたい。それと、子供が遊べる場所。特に不老山公園がこれもせっかくあの素晴らしいのがあったので、それがいつ使えるようになるのか教えていただきたいし、市報にはいつ完成とはあったいたが、厳しいのもあると思うが、早くそこが使えるようになるといいなと思います。

ずっと勤務してくれている職員が家を探していました。そしたら、マンション

が1個志佐にあったので、そこを考えていたが、結局いろんな都合でタイミングが合わなくて、伊万里のマンションが、安いし、数も多いということで、わざわざ松浦希望だったのに、マンション探したけど、そこが入れなくて、伊万里に引っ越した。伊万里から通って来ている。それもすごい残念だなんて思うし、あと、小児科。保護者が。夜中に子どもが熱をよく出す。夜間の救急病院が松浦にない。保育料などそういった面はいいが、現実、夜間に子どもが熱を出して、不安な状況というのが、子育ての中で必ずあるので、1人目から3、4人いらっしやったら、毎回その度に佐世保まで走ってらっしゃる方もいらっしやって、次の日はくたびれ果てて、朝連れて来られている。実的にそういう状況で、すごく大変だったってことを言われていた。だから、ゆりかごから墓まで松浦に、最初から最後までずっといるためには、ほんとに子供からお年寄りさん、青年途中の学校関係・教育関係、理想論ではあるが、基本ベース、それはしっかり1個ずつちゃんとやって、少しでもいいので、1個ずつプラスしてってもらって、松浦市が魅力ある松浦市になっていくように、補助金とか事業とかされているので、素晴らしいと思うが、実際、これに入って聞いて、この会議で見させていただいて、こんなのをされているんだなって分かるが、実際の市民の方は、こうされていることも市報に書いたり、いろいろはされているんですけど、できたら、こういうほんとにこう素朴な声っていうか、こういう保護者さんの声とか、仲間の声とかっていうのが、いろいろ聞いて思うので、自然に囲まれた環境の山に囲まれていますし、素敵なので、それをほんとに、皆さんの素晴らしい頭脳をお持ちの方なので、工夫して、1つでもより良くしていただくと、さらに転出者が減って、松浦市が楽しい。買い物の日曜ごとに出ていくような、私たちの大きい買い物は外に行ってしまうが、こういうのが改善されるような方向に持っていただくと、こういういろんなことを頭にさらに入れていただいて、頑張ってもらったら、人口流出が減って、転出の方が減っていくんじゃないかなと思う。よろしくお願いします。

(議長) ご意見ありがとうございます。

(I 委 員) 資料 1 の 4 ページの子育て支援制度の 14 番目に、評価指標がある。婚姻率とか、不妊治療費助成とか。この中で目標値に対する実績のところ、これが多ければいいのか、少なければいいのかっていう問題をお尋ねしたい。

担当課は子育てこども課だが、例えば、不妊治療費の助成件数が、基準値 21 件、目標値が 40 件とあるが、不妊治療がないほうがいいですね。普通に妊娠されることがいいことだと思う。なので、不妊治療の数が多いから良い、少ないから悪いとかじゃないと思う。その下の子育て相談・地域子育て支援拠点における妊娠、出産、子育て相談件数とか。これも、年間 1700 件としてあるが、これ多ければいいのか。少なければ、少ないっていうことは安心して暮らせているんですよっていう捉え方にもなるし、多ければ、今度、いろんな相談にも積極的に市も受けているんですよ。という捉え方もあるが、そういう目標が達成したか、達成していないのかという計れないこともあるんじゃないかなと思うが、それはどういう考えか。

(議 長) 子育て・こども課いいですか。

(執 行 部) こちらの目標値の設定に関しまして言いますと、確かに基準値のところを参考にしながら、(困られている方の) 手助けができればなというところでの目標値の設定になっている。確かにそこが、これでいいのかどうか、というところは、今後で検証が必要かなと思っている。

それから、子育て相談・地域子育て支援拠点における相談件数については、元々、図書館の近くに URACCO (ウラッコ) という施設があり、相談支援を受けたりしていた。これに加えて、令和 3 年から課内に設けて相談する場所の充実を図っている。やっぱり、必要とされる方っていうのはいらっしゃる。そういった方をこういったところで、受けることは大切であると思っている。そういった意味で、相談できる場所が数多いという面では、効果があっているという風には考えている。相談の内容もいい相談であったり、そうでなかったり、いろいろあるので、対処できるような環境を進められたらという風には思っている。

また、相談に関して、保育園の事業所におかれまして、独自の事業で、子育て

に関する支援相談も受けられているので、連携を図りながら、充実を図っていききたい。

（議長） そのほかございませんでしょうか。はい、どうぞ、B 委員。

（B 委員） 資料 1 の 6 ページのところで、（4）移住定住、関係人口創出・拡大のための取組を推進しますとある。ここの下の方に K P I として 6 つの指標が書いてある。ちょっと不思議に思ったが、移住定住と書いてあるが、K P I に移住者数という数値がなぜないのかというのが 1 点目。

2 点目ですけども、この下に新規就農者とあるが、実際に先ほどの農林課からのご説明を聞いたところ、農家の息子さんで帰ってきた人たちと、そうじゃない本当の他地域から入ってきた人を分けているという話だったと思うが、実際に、例えば、福岡から戻ってきて就農された方などはまさしく、この「まち・ひと・しごと」という意味では、とても大事な人だと思う。そういった方もやっぱりカウントする必要があると思うし、就農だけではなく、雇用ですね、法人とか実際農家の方に雇われて、そこで職を得た人という方もいると思う。そういった新規雇用就業者もこの「まち・ひと・しごと」という意味では大切であると思う。そういうことを含めて、K P I などを設定していただければと思う。

（議長） 事務局の方から。・・・（答弁なし）

その辺は、今ご意見のあった上に、もう少し取り組むべきじゃないかっておっしゃって、数字の中に移住者数をちゃんと、指標の中に出したり、それから、新規就農者も、他地域からだけではなく、親元就農ということで、この家を継ぐ、1 回出た人が U ターンで来て、そういう部分をカウントしていくとか、そういうところの指標の見直しを、今後に向けて検討していければと思う。よろしいですか。

本日は本当にたくさんのご意見をいただきました。できる限りいただいたご意見をこの総合戦略に取り組んでいけるように、事務局としても取り組んでいただきたいと思います。

それでは、以上を持ちまして、令和 4 年の松浦市まち・ひと・しごと創生協

議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

(閉会)